



相撲どすこい！ 江戸川区

実は相撲と深～い関わりがある
江戸川区の物語をひも解きます

日本古来の競技「相撲」は、1500年以上にわたって、大切に受け継がれ、国民に愛され続けています。

平成 29(2017)年 1 月、第 72 代横綱となった稀勢の里に続き、平成 29 年(2017)年 5 月、高安が大関に昇進。この横綱・大関を擁する田子ノ浦部屋があるのが江戸川区の東小岩です。奇しくも第 44 代横綱・栃錦の出身地である小岩から再び横綱が誕生したことは江戸川区にとっても大変喜ばしいことです。

そして、江戸川区にはもうひとつ、若貴時代を大いに盛り上げた第 67 代横綱・武蔵丸、現武蔵川師匠が率いる武蔵川部屋が江戸川区中央にあり、若い力士が関取を目指して日々稽古に励んでいます。

相撲のお膝元である両国から東に約 7 km に位置する江戸川区。普段はあまり知られていない、江戸川区と相撲の関わりをひも解きます。本企画展示では、現在大舞台で活躍している力士の紹介はもちろん、稽古に励んでいる若手力士や相撲を支える人々、また、応援している地元団体の方々を紹介します。

第72代横綱 稀勢の里
横綱の名に恥じぬよう
精進いたします



奉納土俵入り
2017年1月27日
明治神宮

「一抜になるなら早い方がいい」と中学2年で相撲界入りを決めた萩原少年は、中学卒業後、鳴戸部屋に入門。15歳で初土俵、17歳で新十両、18歳で新人幕と、スピード出世はいずれも史上2位の若さ。「稀なる勢いせ」との意味から稀勢の里と改名したものの、そこからの出世ペースにはブレーキがかかった。師匠の死、大関昇進後は5度の綱とり挑戦など、幾多の試練がのしかかった。あと一番足りない、そんな場所が続いても、屈せず、窮まず、初土俵から15年、大関昇進から31場所目にして、大相撲の頂点である、横綱という栄光をつかんだ。

横綱を決めた平成29(2017)年一月場所での千秋楽の結びの一番、ケガをしながら逆勝を果たした平成29(2017)年三月場所での優勝決定戦は、いずれも後世に語り継がれる一番となった。



平成29(2017)年一月場所・千秋楽の結びの一番、初白鰐に勝利。



もっと知りたい
相撲のフシコト。

○横綱土俵入り



横綱が本場所の幕内取組前や巡業先で行う、土俵の上での儀式的こと。型には「雲龍型」と「不知火型」の2種類があり、稀勢の里は「雲龍型」。横綱を外敵から守り、介添えの役割を持つ、太刀持ちと露払いが両脇を固めます。



雲龍型
両脇の型

不知火型
白鰐

○横綱とは…

横綱は力士の最高位で、負け越しても降格することはありません。ただし不振が続けば引退あるのみ。現在の横綱昇進基準は、大関で2場所連続優勝するか、それに準ずる成績を残し、かつ品格・力量が後世とされています。



○横綱の歴史

横綱とは本来は大関の名譽職のようなもので、江戸時代から数えても72人しかいません。3代までの史実はいまいですが、寛政元(1789)年、第4代谷風と第5代小野川が横綱の土俵入りを最初に行ったことが確認されています。番付に横綱の文字が記載されるようになったのは明治23(1890)年からです。



横綱昇進の図。左が第4代横綱・小野川三郎、右が第5代横綱・谷風元之助

土俵は神聖な場所、神事に由来する相撲の舞台

土俵のサイズ

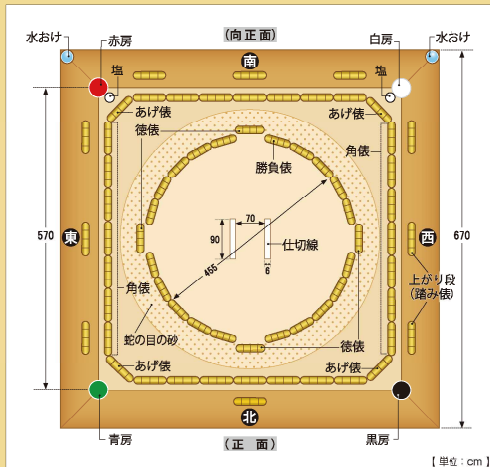
縦 6.7m× 横 6.7m、高さ 60 cmに土を盛って作られるのが土俵です。直径 4.55mの土俵の円は俵を並べて作ります。

場所ごとに作る!

土俵は場所ごとに造りかえられます。両国国技館の場合も古い土を削り取って入れ替え、毎回約 10 トンの新しい土が使われます。地方場所では毎回約 40 トンの土が必要になります。

仕切り線って?

土俵の真ん中に 70 cmの間隔で引かれる、幅 6 cm、長さ 90 cmの仕切り線は、呼出が毎日エナメルのペンキで描き上げます。立ち合いの際、力士はこの線より前に手をつくことは許されません。



誰が作るの?

土俵を作ることを土俵築どひよづきといいます。作業は各部屋の呼出が総出で、40人ほどで行います。機械は使わず、くわやスコップで作ります。俵もひとつひとつ手作りです。

豆知識

- 勝負俵と徳俵がすれているわけ
土俵が屋外にあった時代、雨水が土俵に溜まらないよう、すりしたのが始まり。
- 「蛇の目の砂」の役割
勝負俵の外側に軽く細かい砂をまいておき、力士の足が外に出てしまうと跡がくっきり付き、勝敗が分かりやすくなるため。
- 力士が塩をまくわけ
邪気を払い、神聖な土俵を清めるため。本場所では用いられるのは粗塩。稽古場の土俵でも塩は欠かせません。
- 「力水」とは
力士が土俵に上がった時、柄杓で選ばれる水を「力水」といいます。身体を清める意味があり、口をゆすぎ、「化粧紙」で口元をぬぐいます。
- 4色の房
土俵の屋根の四方に垂らされた房は、四方の守り神と四季を表しています。東は青龍と春、南は朱雀と夏、西は白虎と秋、北は玄武と冬を表しています。

作法が大事な土俵の上

神様がいらっしゃる神聖な場所である土俵では、礼、塩まき、勝ち名乗りの作法ひとつひとつ正しく行うことが大切とされています。そんなきよ、礼は、相手に敬意や感謝を示す作法です。

中央にはお供え物?

本来は神事であり、神聖な場所である土俵では、本場所初日の前日に「土俵祭り」という儀式が執り行われます。木村庄之助など、立行司が祭主となり、天下泰平、五穀豊穡を祈念し、土俵の真ん中には神への供え物として勝ち栗、昆布、スルメ、米、塩、かやの実が埋められます。



「土俵祭り」の祭主を務める、立行司・第34代木村庄之助。土俵の真ん中に縁起物を埋める。

武蔵川部屋

元横綱率いる武蔵川部屋

14代武蔵川(元横綱・三重ノ海)が、分家独立し武蔵川部屋を創設。14代武蔵川は横綱・武蔵丸のほか、出島・武双山・種山の3大関など多くの関取を育て上げた。武蔵川部屋はその後、藤島部屋と名称が変更されたが、部屋付き親方であった15代武蔵川(元横綱・武蔵丸)が、平成25(2013)年に再興したのが現在の武蔵川部屋である。部屋は中村部屋の建物を借り受け江戸川区中央に開かれた。

★師匠・武蔵川、親方・雷(元小結・追込)、力士16名、行司1名、床山1名

我慢して努力すれば、
人間きっと成功できる。

～ 武蔵川部屋 師匠 武蔵川光偉 ～

「怠けずコツコツ稽古を積み重ねれば、強くなるし、怪我をしない丈夫な身体ができます。一生懸命やっていたら力士としても、力士を辞めてからもそのことが生きてきます。4年前、江戸川区に武蔵川部屋を開いてから、弟子は4人から16人になりました。弟子が増えて、次はここから関取をぞひ出したいですね。関取が出れば、部屋のみんなを次の階級にひっぱりあげる力になります。関取になれば、そこから見える風景は違ってきます。江戸川区のみんな、これからも応援よろしくお願ひします」。



新しい稽古が続くが、終われば先輩後輩の仲はいいそうだ。毎日が充実しているという。



江戸川区出身の風武



華麗なる土俵の進行役、行司



第34代木村庄之助 伊藤勝治

横綱との縁が深い小岩から 行司の道へ

横綱・栃錦閣の出身校である下小岩小学校は、私の母校であり、相撲が盛んな環境から行司の道に進みました。約50年、務めた行司の仕事は、力士の運命をも左右するプレッシャーの連続であり、同時に力士や相撲の魅力に深く触れられる貴重な時間でもありました。相撲は今や、日本だけでなく世界的にも人気が高まっています。本展示をきっかけに、江戸川区のみなさんもぜひ相撲通になってください。

Profile

昭和18（1943）年愛知県名古屋生まれ、小学校4年より江戸川区小岩で育つ。伊勢ノ海部屋所属。昭和31（1956）年式守勝治として入門。平成8（1996）年五月場所から第11代式守与太夫、平成18（2006）年五月場所から第36代式守伊之助、平成19（2007）年五月場所から平成20（2008）年三月場所まで行司の最高峰、第34代木村庄之助を務める。引退後の現在は、相撲を一般に広めるための講演活動に取り組む。監修書に『相撲通レッスン帖』（大泉書店）、『大相撲の解剖図鑑』（エクスナレッジ）。8月下旬には新刊『相撲見物』（青幻舎）が発売された。



相撲を支える人々。行司・呼出・床山

行司

取組を裁く

東西の力士を立ち合わせ、「はっけよい」「のこったのこた」と取組を進行し、勝敗を判定するのが行司です。各相撲部屋に所属し、序ノ口勝に始まり、序二段勝、三段目勝、幕下勝、十両勝、幕内勝、三役勝、最上位の立行司まで8階級があります。着用する装束(直垂)や旗物にも階級ごとに約束があります。行司が戴く旗は「木村」と「沢守」のふたつがあり、軍配の振り方が違います。どちらの姓か入門した相撲部屋によって決まり、姓が変わることもあります。

立行司の短刀

横綱を戴く立行司になると、腰に短刀を差して土俵に上がります。これは差した切替するという覚悟の意味があるといえます。

番付表も書きます

行司の仕事は、取組の進行以外にも多岐あります。土俵入りの先導、決まり手の発表、懸賞アナウンスの他、独特の相撲文字による番付表を書くのも行司の役目です。土俵祭りでは懸主を薦め、高業では移動手段の手配を行います。



土俵祭りでの懸主を薦める、第34代木村和正氏(伊豫行司)

呼出

呼び上げ

呼出さんの大仕事は、呼び上げ。「ひがしー、〇のやまー、にーしー」と、力士の名を大きな声で紹介します。取組の際は土俵回りで、ほうきで土俵を掃き清めたり、扇の用意や補充、力士にタオルを渡し制限時間を伝えるなど、細かい業務をこなしています。



土俵をつくる

本場所や高業で土俵をつくる一土俵築も呼出の仕事です。土俵には寛木面という土が用いられ、機械を使わず、くわやスコップ、突き棒など、すべてを人の手で行います。用いられる旗もひとつひとつ呼出の手作りです。

トントコ太鼓も叩きます

トントコトントコ〜本場所や高業で開場と閉場を知らせる太鼓を打っているのも呼出です。朝8時に打つのを「寄せ太鼓」、取組終了を知らせる夕方6時の太鼓を「眺め太鼓」といいます。

床山

力士の証、髷を結う

力士の髷を結う専門職が床山さんです。十両以上の力士だけに許されているのが「大髷髷」。それ以下の力士は「ちゅんまげ」です。取組前や普段はちゅんまげで、朝禮吉が終わると順々に結ってもらいます。床山の技術は、ちゅんまげに3年、大髷髷を結うのに5年以上かかるといわれます。床山は各相撲部屋に所属しています。

床山の道具

床山は、歯の形や形状の異なる数種類のくしや髷髷、握りばさみを用い、美しい髷を作り上げます。髷を結ぶのに使う糸を元結といいますが、形を整えるのに使う、独特のいい香りがする髷髷髷はびんつけ髷です。



応援しよう！ 江戸川区生まれの現役力士！



英乃海

本名：岩崎拓也
所属：木瀬部屋
平成元（1989）年6月11日生（28歳）
身長 185 cm / 体重 160 kg
江戸川区立上一色小学校1年生から相撲を始め、10歳で台東区小松籠道場に通い、葛飾区立大道中学、埼玉栄高校、日本大学の各相撲部で活躍。大学卒業後、木瀬部屋に入門。平成24（2012）年5月初土俵、翌7月場所での序ノ口優勝。平成27（2015）年7月場所初入幕。最高位は前頭12枚目。



翔猿

本名：岩崎正也
所属：浪手部屋
平成4（1992）年4月24日生（25歳）
身長 173 cm / 体重 115 kg
木瀬部屋の英乃海は実兄。兄の影響で、江戸川区立上一色小学校の1年頃から道場に通い、相撲を始め。葛飾区立大道中学、埼玉栄高校、日本大学に進み実績を挙げた。入門はあえて兄とは異なる部屋で、大学相撲2年先輩の道場がある浪手部屋に入門。初土俵は平成27（2015）年1月。最高位は十両14枚目。



栃佐藤

プロの世界はまったく違う

「立ち合いの一瞬が勝負を左右する、スピードの速さはもとより、プロとアマはすべてが違います。江戸川区のわんぱく相撲をきっかけに小3から相撲を始めましたが、プロになりあらためてその難しさを感じています。横綱・新鶴ゆかりの春日野部屋で、兄弟子の腕を借りながら切磋琢磨しています。栃佐藤の名を区民のみならずにももっと知ってもらえるよう、もうひと頑張ります」。

本名：佐藤敬
所属：春日野部屋
平成6（1994）年4月28日生（23歳）
身長 172 cm / 体重 158 kg
江戸川区立南葛西第二小学校の3年生の時、江戸川区区立わんぱく相撲で優勝。中学、高校でも相撲部で自らを鍛え、新鶴の出身部屋である春日野部屋に入門。最高位は三段目85。



風武

ガチンコ勝負がカッコイイ！

「相撲好きの祖父の影響で力士に憧れ、区内に新しくできた武蔵川部屋の見学もした。師匠と武蔵面のぶつかり稽古には興奮させられました。正々堂々とガチンコで勝負相撲にカッコよさを感じ、自ら志願し入門が叶いました。稽古は終わるまで休まず白分を追い込むよう心がけています。ちゃんこもよく食べ、体脂肪は入門から約20kg増えました」。

本名：中山風太
所属：武蔵川部屋
平成10（1998）年7月28日（19歳）
身長 177 cm / 体重 98 kg
江戸川区立松江第四中学校卒業後、武蔵川部屋に入門。平成26（2014）年5月場所での初土俵を踏む。最高位は序二段63。



栃錦の足跡

●JR 小岩駅の銅像

横綱・栃錦の偉業を称え、区民の誇りとしてその名誉を後世に伝えようと、平成 2（1990）年に建立された栃錦のブロンズ像。昭和 33（1958）年頃の土俵入りの姿をかたどったもの。



●下小岩小学校 南小岩7-8-1

横綱・栃錦の出身校。小学校時代からスポーツ万能で、善養寺で開かれる相撲大会ではいつも優勝していたといえます。昭和 33（1958）年、小学校が火事で焼けた際には、一門で義捐金募集のための慈善相撲を行ったそうです。



●萬福寺 南小岩2-2-4

天文5（1536）年創建。栃錦、故春日野清隆氏の菩提寺。右手墓地正面にお墓があります。



●善養寺 東小岩2-2-2

◇「影向の松」の横綱論争

昭和 54（1979）年、テレビで影向の松が日本一と紹介された際、香川県の真覚寺から待ったがかかり、日本一論争が起こりました。これを当時の大相撲立行司木村庄之助が「どちらも日本一につき東西の横綱に」との名裁きを下し決着。翌年には春日野理事長（栃錦）が影向の松を東の横綱に推挙し、松の幹のサイズに合わせた大横綱を奉納しました。

◇本堂正面の山門、仁王門には、仁王像の裏側に、JR 小岩駅にある栃錦像の原型と、影向の松に贈られた大横綱が飾られています。

◇こども相撲大会と横綱山

昭和 55（1980）年 9 月 7 日、境内で行われたこども相撲大会に、春日野理事長（栃錦）が一門の関取衆をつれて参加。以来、平成 2（1990）年まで毎年関取衆とともに続いたこども相撲大会。その土俵の土でできた小山が、横綱山です。

善養寺と栃錦



善養寺入口



大横綱と栃錦の銅像が納められた山門



東の横綱「影向の松」



横綱推挙の石碑



町を挙げて行われた「こども相撲大会」春日野理事長杯



大会会場へ向かう春日野理事長



若い関取に力を入れて



横綱山



❶ 善養寺 東小岩 2-24-2
 大永 7 (1527) 年、山城 (京都府)
 慶福山の稲穂法印が不動明王を
 祀ったのが始まりと伝わっています。
 樹齢 600 年以上の、境内の影向の松は、国の天然記念物に指定された立派な巨木です。横綱・初鵬のゆかりの話が数々残っています。(初鵬の足跡パネル参照)



❷ 高福寺 東小岩 2-2-4
 天文 5 (1536) 年創建。横綱・初鵬の菩提寺です。



❸ 善照寺 東小岩 3-3-19
 大永 2 (1522) 年創建。元禄 12 (1699) 年に初代横綱・明石忠實之助が境内で引退相撲を行ったと伝えられ、これにちなんで毎年縁日に草相撲が行われていたことから「相撲寺」と呼ばれるようになりました。



❹ JR 小岩駅
 改札口に初鵬の銅像があり、持ち合わせ場所として扱われています。



❺ 下小岩小学校 南小岩 7-8-1
 横綱・初鵬の出身校。(初鵬の足跡パネル参照)

❻ 小岩小学校 東小岩 3-20-10
 小岩小学校では、稀勢の里が横綱に昇進した際、優勝と横綱昇進の報告会が盛大に行われました。

❷ 上冠発祥之地 南小岩 3-6-1 (南小岩会館)
 南小岩は古くは「上冠」と呼ばれていました。その「上冠」という地名を後世に伝えるべく建立された石碑「上冠発祥之地」。刻まれた石碑の文字は小岩ゆかりの横綱・初鵬によるものです。



❸ 総合レクリエーション公園の相撲場
 葛西にある総合レクリエーション公園のフットボール広場には、屋根付きの立派な相撲場があります。ここは区内相撲大会や、大学の相撲大会などでも使われています。



区内に2つの相撲部屋

❶ 田子ノ浦部屋
 東小岩 4-9-20
 横綱・稀勢の里、大関・高安を擁する相撲部屋。



❷ 武蔵川部屋
 中央 4-1-10
 第 67 代横綱・武蔵丸、現武蔵川親方率いる相撲部屋。



区内の小学校 70 校が参加する あんぱく相撲大会

心身の鍛錬と健康の増進を目的に昭和 52 (1977) 年に始まったわんぱく相撲は、全国大会として今年 33 回を迎えました。今年 7 月 30 日に開催された全国大会には江戸川区から唯一、小学 5 年生の齋藤忠剛くんが東京選抜で参戦。元気いっぱい健闘してくれました。

夢は横綱です!
 ●江戸川区立新堀小学校 5 年 齋藤忠剛くん
 「3 歳から相撲道場に通っています。来年も全国大会に出場し、両国国技館で観たいです。相撲合宿が楽しいです。夢は横綱です!好きな力士は勢筒です。」



悔しいから勝ちたい! 純粋な気持ちで育む
 ●東京青年会議所 江戸川区委員会
 (第 41 回わんぱく相撲江戸川区大会 実行委員長) 鎌倉友博さん
 「相撲をとった時の、息子のそれまでにない緊張した本気な表情に、私自身興味をかき立てられました。相撲は、家庭や学校では得難い教材で、悔しいから勝ちたい! そうした気持ちをストレートに育む、特別な国技だと思っています。もちろん丈夫な身体とともに、感謝の気持ちや思いやりの心も学べます。」

強い身体、強い精神、礼儀や感謝の心を
 ●忠剛くんパパ・元関取大塚・平山剛・伊勢ノ海部屋> 齋藤 龍さん
 「3 兄弟、相撲をやらせています。子どもたちは、強い身体を作り、強い気持ち・精神力を養うと同時に、勝っても負けても相手を尊ぶ、思いやりや礼儀、感謝の心身につけてほしいと思っています。」

後世に相撲道を伝えるために
 ●江戸川区相撲推進事務局長・副理事長 小泉 功さん
 「江戸川区で相撲道を長く伝承していくために江戸川区相撲推進は活動しています。区民相撲大会の開催、区内小学校相撲教室の指導、協力をはじめ、わんぱく相撲の審判等も行っていきます。相撲は強い身体を作り、礼儀作法が身につく競技です。この国技を普及し、2020 年の東京オリンピックでもぜひ世界に向けてアピールしたいですね。」



「第 33 回わんぱく相撲全国大会」
 全国から小学生力士たちが、憧れの両国国技館に集まりました。彼は、都内の相撲部屋に分かれて修行、ちゃんこも体験!

